

2021年11月1日

## 第21回 日中韓三カ国会計基準設定主体会議を開催

2021年日中韓三カ国会計基準設定主体会議が10月13日にビデオ会議で開催されました。本会議には、企業会計基準委員会（ASBJ）の小賀坂敦委員長、中国会計准则委員会（CASC）のJuan Zhang 副司長及びKai Di 副司長、韓国会計基準委員会（KASB）のEui-Hyung Kim 委員長をはじめとする3カ国の代表者が参加し、香港及びマカオからは、香港公認会計士協会のErnest Lee 財務報告準則委員会委員長及びマカオ会計士委員会のPou Man Ng 委員が参加しました。また、国際会計基準審議会（IASB）のAndreas Barckow 議長、Jianqiao Lu 理事、鈴木理加理事及びAnn Tarca 理事、並びにIFRS財団アジア・オセアニアオフィスから高橋真人ディレクターも本会議に参加しました。

中国、日本、韓国、香港及びマカオの代表者は、IFRS基準の適用の進捗状況及び各法域における会計基準の開発に関する最近の活動状況を報告したほか、共通支配下の企業結合（BCUCC）、暗号資産に焦点を当てた無形資産、及び独立した補完的な一時的基準（Independent Supplementary Temporary Standards）について、生産的かつ詳細な議論を行いました。

今回の会議で、代表者たちは次の事項について協力していくことで合意しました。

1. 単一の高品質なグローバルな会計基準としてのIFRS基準へのコミットメントを強化すること。
2. IASBの作業に貢献するため、潜在的な基準設定上の論点を積極的に識別してリサーチを行い、IASBの主要プロジェクトの議論に積極的に参加すること。
3. 地域におけるIFRS基準の一貫した適用を可能にするため、意見及び経験を共有することを目的として、三カ国間のコミュニケーションを強化すること。

三カ国の代表者は、対面による会議が望ましい点で合意に至りました。KASBのEui-Hyung Kim 委員長より、次回の会議は、対面で開催可能であれば、2022年後半に中国で開催される予定であることが発表されました。COVID-19のために次回もビデオ会議形式で開催しなければならない場合は、日本が主催する予定です。

以上